シリーズ 第39回

美作最大級の横穴式石室

―井上火の釜古墳―

広域農道を西に走り、真加部付近で右手に見える仙形山斜面を臨むと、大きな石で組まれた石室が開口しているのが見えます。これは「井上火の釜」（町指定文化財）という古墳の横穴式石室です。

井上火の釜は、井上大塚古墳・まかべ一三号墳ともよばれています。横穴式石室というのは、古墳の側面に入口が設けられた石室で、何度でも追葬が可能な仕組みになっており、古墳時代後期の六世紀に多く築造された古墳の埋葬施設です。

真加部火の釜・遠景

井上火の釜の石室は、現存長一一・〇二m、棺を納めた部屋（玄室）の規模は、長さ六・三六m、最大幅二・一一m、高さ一・七五m、入口から玄室までの通路（羨道）は、長さ四・六六m、最大幅一・六八m、高さ一・三mを測ります。玄室は、奥壁から見て右側が広くなっている右片袖式とよばれる横穴石室で、本来は石室に封土が覆っていたのですが、耕作土として持ち去られたり、長い年月の間に風雨に流されたりして、石室の天井石も露呈し、外形は大きく損なわれています。しかし本来は円墳であったと推定されており、町内で最大規模の横穴式石室をもつ古墳です。この石室の規模は、美作最大級の横穴式石室をもつ川戸二号墳（美作市・石室全長一二・三五m）、万燈山古墳（津山市・同一二・一m）、穴塚古墳（真庭市・同一二m）に並ぶ規模になります。

出土遺物は確認されていませんが、石室の構造から、古墳時代後期でも終わりの方にあたる七世紀初頭頃に築造されたと思われます。この頃には、古墳の築造は次第に行われなくなりますが、井上火の釜は、単独で築かれ、石室の天井石も巨大な石を用いるなど周辺地域の古墳と比較しても石室規模が大きく、当時の土木工事技術から推定してもかなりの労働力をもって築造したことが想像できます。また、井上火の釜から南部を眺めると、真加部と宗枝の平野が一望できます。このように石室の規模や立地条件から考えると、この古墳に葬られた人（被葬者）は、この古墳から見える範囲一帯を治める地域の有力者であったのではないでしょうか。

石室入口

町域南部は、津山盆地の西端に位置しますが、古墳時代前期（四世紀）には、かつて三角縁神獣鏡を出土した観音山古墳（下原）などの首長墳が存在するなど、古墳時代を通じて有力な豪族が存在していたことがわかります。吉井川・香々美川流域に広がる、実りの良い広い土地を支配する代々の有力者が最後に築いた古墳が、この井上火の釜であったのかもしれません。

井上火の釜は、付近に駐車場もあり、古墳までの歩道も整備されていますので、是非現地で石室の規模、一つ一つの石材の大きさ、古墳からの眺めを実見していただき、被葬者の力がいかほどのものであったのかを想像してみてはいかがでしょう。

古墳から見た真加部・宗枝の平野

参考資料：
『鏡野町史』考古資料編・通史編、『鏡野町の文化財』

生涯学習課　日下
電話(0868)54-7733

2013年8月号　第102号　毎月1日発行
〒708-0392 岡山県苫田郡鏡野町竹田660 鏡野町くらし安全課 TEL0868-54-2780
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/